

**田沼政治**

1 **家重** 9代 1745～60. 吉宗の子、病弱→吉宗が執政(大御所政治) →吉宗没(1751)後は側用人 2 **大岡忠光**が台頭

3 **家治** 10代 1760～86. 家重の子

4 **田沼意次** たぬまおきつぐ の政治(1767～86) 小姓・側用人から老中へ

**A. 商品経済の保護・統制と利用 (重商主義)**

① 5 **株仲間の奨励** 特権付与→ 6 **運上** ・ 7 **冥加** の徴収  
 ※ くりわたのべばいばい 繰綿延売買会所 ・ きぬいとあらため 絹糸改会所設置 …取引の円滑化、取引税の徴収

② 7 **専売制** の導入・強化…座の増設など

〈例〉 8 **銅座** (1766復活)、 9 **人参座**、 10 **鉄座**、 しんちゅう 真鍮座、俵物会所

③ 通貨制度の改変 →経済流通の円滑化

〈例〉 11 **南鑛二朱銀** なんりょう …銀の計数貨幣で単位は「朱」 8枚で金1両 ※両替商は反対

④ 12 **印旛沼・手賀沼** いんぱ の干拓…利根川下流 ※享保改革当時から着手

**B. 鎖国政策の見直し**

⑤ 13 **長崎貿易の拡大** … 14 **銅・俵物** を積極的に輸出、金銀を輸入

⑥ 15 **蝦夷地調査** ※ 16 **赤蝦夷** (ロシア人) との交易も計画

☆1778. ロシア船、あつげい 厚岸へ来航…ロシアのシベリア・オホーツク海進出

17 **工藤平助** (仙台藩医師)、『18 **赤蝦夷風説考**』を提出し交易などを主張  
 →蝦夷地探検隊を派遣 〈例〉 19 **最上徳内** (出羽の農民出身、20 **本多利明** に師事)

**結果** ・ 反対勢力による抵抗 〈例〉松平定信ら幕府保守派、両替商など

- ・ 物価高など社会の混乱→江戸・大坂で 21 **打ちこわし**
- ・ 大商人との癒着→賄賂政治との批判→民衆の反発

**崩壊** ・ 天災の続発 〈例〉 22 **浅間山** 噴火(1783)、 23 **天明** の飢饉(1782～87) →百姓一揆

- ・ (意次の子) 若年寄 24 **田沼意知** おきとも 暗殺(1784) ← 25 **佐野政言** (民衆は「世直し大明神」と称える)
- ・ **将軍家治没** (1786) →意次失脚…改革の多くが撤回

## 社会の変容（17～18世紀）

◆天災・凶作・飢饉の多発…<sup>26</sup>津留<sup>つどめ</sup>（領外への物質移出禁止）により深刻化

〈例〉<sup>27</sup>享保の飢饉（1732）…西日本、長雨・虫害（ウンカ）

<sup>28</sup>天明の飢饉（1782～87）…東北中心の冷害 長雨・<sup>29</sup>浅間山噴火（1783）

※<sup>30</sup>天保の飢饉（1833～39）と合せて三大飢饉と言う

→農村の疲弊 →人口の停滞（<sup>31</sup>間引<sup>まびき</sup>など）、都市への流入（<sup>32</sup>無宿者<sup>むしやくしや</sup>）→治安問題

《農村》<sup>33</sup>百姓一揆（約3200件） ※ <sup>34</sup>傘<sup>からかさ</sup> 連判状…主謀者を隠す？

17世紀後半：<sup>34</sup>代表越訴型一揆…<sup>35</sup>義民<sup>おっそ</sup>の<sup>36</sup>直訴 ※多くが伝説化

直訴…領主・将軍への訴え <sup>37</sup>越訴<sup>おっそ</sup>（所定の手続きを経ない訴え）の一種

義民…村を代表 多くは死刑（<sup>38</sup>磔<sup>はりつけ</sup>）〈例〉<sup>37</sup>佐倉惣五郎<sup>さくらそうごろう</sup>（木内宗吾）〔下総〕 多田嘉助〔信濃〕  
<sup>39</sup>磔<sup>はりつけ</sup> 茂左衛門〔上野〕 松木庄左衛門〔若狭〕

18世紀 <sup>40</sup>惣百姓一揆<sup>そうひやくしやう</sup>…村役人層の指導

〈例〉1754. 久留米一揆〔筑後〕…16万人以上の参加 1783. 元文一揆〔陸奥〕

《都市》<sup>39</sup>打ちこわし（約500件）…都市の町人（貧民）が米屋・豪商を襲う（←米価高騰など）

—— 零細な<sup>40</sup>棟割長屋<sup>むねわりながや</sup>に居住

〈例〉初例は享保（1733） <sup>41</sup>天明の打ちこわし（1787. 大坂・江戸他）など

◆<sup>42</sup>問屋制家内工業により<sup>43</sup>農村に貨幣経済が浸透→貧富の差の拡大

→ { 貧農…土地を質入れ→質流れ→<sup>44</sup>小作人<sup>せうさくじん</sup>化（質地小作） 都市へ流出する者も

{ 富農（<sup>45</sup>豪農）…新田開発や質流れ地を獲得→<sup>46</sup>地主<sup>ぢゆうし</sup>化 地主手作から寄生地主へ

→本百姓体制の動揺…村内自治や年貢徴収に支障

〈例〉<sup>47</sup>村方騒動<sup>むらかたさわどう</sup>（約3200件）…村落内部の紛争 村役人の交替・貧農の村政参加などを要求

<sup>48</sup>質地騒動…質入れ田地の取り戻しを要求 特に質流し禁令（1722）直後

【正誤問題に挑戦】〈1995年度本試験より〉

① 佐倉惣五郎の伝承に知られるように、処刑された一揆の指導者の中には義民として<sup>あが</sup>崇められる者がいた。

② 幕府内で権力を振るった田沼意次の<sup>あが</sup>弟意知が、江戸城中で刺し殺されるとともに、意次は失脚した。